

第2回庄原市行政評価委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成28年1月6日（水）
開 会：14時00分
閉 会：15時55分
2. 開催場所 庄原市リサイクルプラザ
3. 出席委員 荒木和美 委員（委員長） ・ 加藤広行 委員（副委員長）
積山豊通 委員 ・ 山根英徳 委員 ・ 齋藤万由美 委員
山岡弥香 委員 ・ 小島由佳利 委員
4. 欠席委員 なし
5. 出席職員 自治定住課長 宮崎孝記
商工振興課長 寺元豊樹
企画課政策推進係長 中田博章
企画課政策推進係 横山敬之
6. 傍聴者 1名
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第2回庄原市行政評価委員会次第

平成28年1月6日（水）14：00から
庄原市リサイクルプラザ 会議室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 平成28年度予算編成方針について

4. 評価意見の検討

(1) 自治振興区活動促進補助金

(2) 高速バス活用による定住対策補助金

5. 評価対象事業の説明

(1) 花いっぱい運動事業補助金

(2) 企業立地促進条例助成金

6. その他

6. 閉 会

会 議 経 過

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

今年はじめてあり、本年もよろしくお願いします。

今回から評価も具体的な内容に入っていきます。異なる意見も積極的に発言いただき最終的には委員会として意見をまとめたいと思います。

本日もよろしくお願いします。

3. 平成 28 年度予算編成方針について

— 資料を事務局が説明 —

委 員：公債費の減少は、繰り延べているのか。

事務局：新たな起債発行額を抑制することで、元金償還が減少している。また、決算剰余金が生じたときに繰上償還等をしており、減少している。

委 員：来年度、極端に増えるというものではないのか。

事務局：計画的な起債発行しており、今後も減少する。

委 員：基金の繰り入れについて、今後、取り崩し額を補填するため積み立てる必要があるのか。

事務局：財政調整基金は、市の純然たる財産であり、補填する必要はない。過疎地域自立促進基金は、過疎債という借金をして積み立てており、償還が必要であるが交付税算入率が非常に有利な起債であり、市が実質償還しなければならないのは一部である。

4. 評価意見の検討

(1) 自治振興区活動促進補助金

— 山内自治振興区の取組概要の資料を事務局が説明 —

【①現行どおり】の意見

評価シート記載意見

・実績概要を見みると、補助金が有効に使われている様には感じます。

ただ 各自治会がこれらの事業を把握し、納得し、全体の事業として発展を望んでいる事業でなければいけないと思います。

また 補助金の有効性が一時的なものではなく、継続しているかどうかもちんと把握していくべきだと思います。

委 員：評価シートへ記載のとおり。

【②現行どおり】の意見

評価シート記載意見

「自立した地域運営を確立するための基盤整備の支援」は必要な事業だと思うが、申請交付を受けた後の地域が自立に向けて活用運営を継続されているか行政としての管理が必要ではないかと思う。

自立促進・自主運営へむけ、自治振興区への支援は維持し、今後は行政の助言協力等を強化する事業であってほ

しいと思う。

委員：自治振興区も自ら考え行いたい事業があると思うので、今後も支援が必要であり支援の形は残していただきたい。

しかしながら、事業を実施しても自治振興区に収入が入らないとの説明があったので、このあたりの行政と自治振興区との関わり方がわからない点がある。

また、成功例だけでなく、行き詰っている事業のフォローも大切であるとする。

【③縮小】の意見

評価シート記載意見

- ・事業内容を見ると多様な内容が含まれており、地域で有効活用されているものと思いますが、交付後の活動実績や利用頻度等について確認をする必要性を感じます。（ただし、多くの書類で地域に負担を掛けない配慮が必要。）
- ・申請件数が落ちてきているということですが、自治振興区等から声を聞き、この原因も確認する必要があると思います。

また、この補助金を活用したすぐれた取り組みを市内の自治振興区にしっかりと伝えて活用されるよう努力していただきたい。

- ・上記の取り組みを行いつつ、補助額は現状を上限もしくは、縮小の方向で考えるべきだと思います。

委員：大幅に削減するという意味ではなく、自治振興区の果たす役割等を勘案し事業の選定を慎重に行ってほしい。

また、申請件数も減っており、活用が難しい面があれば見直しを検討されたい。

【④その他の見直し】の意見

評価シート記載意見

自治振興区が活発に活動される良い制度であると考えられる。活動に対する補助は理解できるが、備品（ハード）に対する補助は不適合と感じます。

備品関係は、当該事業に関する担当課と協調補助として、その後の活用等を監視する必要があると考えます。

委員：本日のブランド米推進協議会の取り組みの説明を聞くと社会実験的にハード整備も否定するものではないと思う。

担当課との連携がないと活かされないのでは、気になる点ではある。

【⑤その他の見直し】の意見

評価シート記載意見

- ・振興区が事業主体の事業は、活動促進に繋がり地域全体に影響を及ぼす必要があると思います。
- ・特に、産業振興事業を振興区が実施するのは実績・効果等に無理があり、生産振興事業で対応すべきだと思います。
- ・ソフト事業（ハード面を含む）に特化した事業に組み換えが必要だと思います。

委員：生産振興部門は、自治振興区が担うには無理がある。他の事業に比べ補助率もよく、教育・福祉等の他の分野を行うべき。

また、振興区の備品が増えることは、維持管理の面からも好ましくなくソフト事業に特化すべきと考える。

【⑥その他の見直し】の意見

評価シート記載意見

一層効果的な補助事業とするため、事業の実施にあたっては、担当課（事業内容を所管する課）はアドバイスを
行うこととし、事業の成果についても継続して担当課とともに検証を行う体制を整備してはどうでしょうか。

委員：自治振興区への補助という点は、気になる点があり、担当課との連携が重要であり見直しの
必要がある。

－質問・その他意見－

委員：宝くじの収益を充てているコミュニティ事業は自治会でも申請できるのか。

事務局：自治会でも応募可能である。

委員：ハード整備は、コミュニティ事業で対応できないか。

事務局：全国の制度であり、応募件数に対し予算枠が限られ採択が難しい面があることと、性質がコ
ミュニティ事業に限定される。

－総括意見－

委員長：総括意見としては、「その他の見直し」とする。

委員長：要点としては、

- ①地域全体に影響を与える事業であるとの視点が重要である。
- ②自治振興区や自治会の本来のあり方を確認する必要がある。
- ③ソフト事業を中心にしながら、先駆的で社会実験的なハード整備は否定するものではない。
- ④継続的な視点で、事業担当課との連携による追跡調査や支援体制が必要である。

(2) 高速バス活用による定住対策補助金

【①終了】の意見

評価シート記載意見

転出の歯止めになることは良いことと思う。目的にある経済的負担も他の事業と合わせれば、この事業に限りで
なく対応はできるのではないかな。

委員：担当課の説明でわずかながら転出の歯止めになっていると説明があったが、件数からみて本
当に歯止めになっているのか疑問な点もある。

他の事業との統合等も検討されたい。

【②終了】の意見

評価シート記載意見

本制度の利用者が少なく、定住対策としては、他の手法を検討した方が良いと思います。

高速バスは便利で出張にはよく利用していますが、庄原バスセンターの駐車場が一杯となり停められなくなるこ
とが不安です。

委員：評価シートへ記載のとおり。

委員：庄原バスセンターの駐車場については、駅前区画整理事業にあわせて一定の整備がされる予
定である。

【③終了】の意見

評価シート記載意見

- ・定住対策としての十分な効果が認められておらず、終了すべきだと考えます。
- ・ただし、学生割引補助は高速バスの維持・確保の観点から継続が必要と思います。
- ・各地域の交通手段の維持は大きな課題であり、事業者との継続検討が必要です。

委員：評価シートへ記載のとおり。

【④その他の見直し】の意見

評価シート記載意見

- ・庄原市にとって（高速）バスは、もっとも重要な公共交通手段です。しかし、定住対策としての本事業の効果は限定的だと思います。バスの利用促進として別に行うことで、事業そのものは継続できると思います。
- ・高速バスの利用促進、通学者・通勤者の支援は、拡充の方で考えることはできないか。具体的にはイメージしにくいですが、通勤手当や他の割引制度を活用しても、毎月の通勤、通学が高額となる利用者を広く対象にする方向が良いと思います。

委員：評価シートへ記載のとおり。

【⑤その他の見直し】の意見

評価シート記載意見

- 定住促進が目的であるなら、地元で通いたいと思えるような魅力ある学校作りや、就業先の確保など、他の方向性の施策を検討してもよいのではないかなと思う。
- 自宅から通学・通勤してほしいと願う親としては、ありがたい制度だと思うので、希望者があるなら継続してほしいと思う。

委員：評価シートへ記載のとおり。

【⑥その他の見直し】の意見

評価シート記載意見

- 利用者数が少ないのは、この補助金を知らないこと、広島市内への通勤・通学者が対象ということが大きな原因だと思います。
- 定住対策の視点からは外れるかもしれませんが、庄原～東城間の通勤・通学・通院の利用が可能になればよいと思います。

委員：評価シート提出時は「拡充」としていたが「その他の見直し」に変更する。

委員長：了承する。

委員：評価シートへ記載のとおり。

－質問・その他意見－

委員：このような事業者との行政の連携事業は、他地域にはあまりない事業であり、庄原から広島
のノンストップ便の確保等につながっている面もある。

このことにより、広島から広島県庄原庁舎への通勤も可能となっている。

定住促進以外の総合的な面でメリットがあり、通学・通院を含めた施策は必要と思う。

委員：東城から通院で高速バスを利用される方も多い。

事務局：専門学校生を含めた学生の通学支援としては、非常に有効と考えている。

－総括意見－

委員長：総括意見としては、「終了」とする。

委員長：要点としては、

- ① 本事業と同等で、高速バスに限らずバスの路線・便数の確保対策を行うこと。
- ② 庄原東城間の支援、通学・通院を含めた支援施策を検討すること。
- ③ 事業者との連携を行い、地域に不利益が生じないよう配慮すること。
- ④ 制度の周知が早期にできるよう、行政において工夫をすること。

5. 評価対象事業の説明

(1) 花いっぱい運動事業補助金

－ 【資料4】を事務局が説明 －

委員：補助率は何割か。

事務局：定額補助である。全体事業費としては、36万円程度であり、事業主体の負担もある。

委員：本町女性会以外には周知されていないのか。

事務局：周知されていないと思う。当初、クラスターのまちづくり事業で推進したものであり、ある地域限定事業として進めてきた。

委員：周知をすれば、申請される団体はあると思うが、果たしてこれで花いっぱい運動につながるのか疑問である。

取り組みを誘導するのであればいいが、補助金でやるものではなく、それぞれの地域で芽が出てくるのが本来である。

事務局：そのとおりであると考え。これまので実施箇所は、公共施設等が多く委託事業的な性質であったと思う。今後は、公共施設については補助事業とするのか委託事業とするのか整理が必要と考える

しかし、公共施設以外は、この取り組みをされていない地域もあり市内全域に拡大するため支援を続けたい。

委員：私の地域では自治振興区の補助金を活用し取り組んでおり、性質的には補助事業でいいと思う。

委員：各地域で同様の事業を自費でされている団体があるのか。

事務局：ある。

(2) 企業立地促進条例助成金

－ 【資料5】を事務局が説明 －

委員：成果として地元雇用者数の推移又は現在の数値が示せないか。

事務局：資料を持ち合わせていないため、後日、回答する。

委員：三次の工業団体は完売しているのか。

事務局：完売はしていない。

委員：10%に引き上げて庄原に誘致に効果があるのか、これだけ考えてもよい方向に行かないので

はないか。

事務局：地理的、物流的等、様々な条件があるが他の地域の工業団地との競争になり、三次市と同等には引き上げをし、一括分譲を目指したい。

委 員：今後の労働者の見込みなどわかる範囲で資料を示していただきたい。

事務局：資料を整理して提示する。現在、職種によるが景気が良いため人手不足の状況にある。

委 員：「現在ある地域産業との連携を図る事業展開となればさらに効果が期待できる。」とのプラモニ意見があるが、このようなことを話し合う場があるのか。

事務局：次回、説明する。

6. その他

(1) 委員会選定評価事業の選定

委員長：2事業程度を評価対象して選定したい。

委 員：「しょうばら国際交流協会負担金」を評価対象としたい。

委 員：事業費も多額で、農業をしているがなじみがないため「がんばる農業支援事業補助金」を評価対象としたい。

委 員：認定農業者について、わからないので「がんばる農業支援事業補助金」、「農地利用集積促進事業補助金」を評価対象としたい。

委員長：「しょうばら国際交流協会負担金」及び「がんばる農業支援事業補助金」を評価対象と決定する。

(2) 1月中の評価委員会の日程について

委員長：次回第3回の会議は、平成28年1月13日午後2時から、第4回の会議は、平成28年1月25日午前10時から、いずれも庄原市役所5階第一委員会室で行う。

7. 閉 会